

<b>教育目標</b>	元気いっぱい 夢いっぱい やさしい心の竹町の子
<b>目指す幼稚園像</b>	・幼児期を幼児らしく、のびのびと豊かに生活できる幼稚園 ・保育の質の向上を図り、個の育ちと協同的な学びの場を保障する幼稚園 ・家庭や地域と連携し、幼児・保護者・教職員が共に育つ幼稚園
<b>目指す幼児像</b>	・体をよく動かして遊ぶ、健康な幼児 ・人や自然を愛し、心の豊かな幼児 ・好奇心をもち、すすんで考え創意工夫をする幼児 ・友達と助け合い、楽しく遊べる幼児
<b>目指す教師像</b>	・保育を楽しみ、一人一人の育ちを大切に促す教師 ・互いに信頼し合い、協力し合う教師 ・向上心をもち、自己研鑽できる教師 ・保護者、地域と連携し園運営に参画する教師

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組に関する目標及び数値	成果に関する目標及び数値	取組例
幼児期を幼児らしく豊かに生活できる幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期を幼児らしく、伸び伸びと豊かに過ごすための教育環境を充実させ、心身ともに健康でたくましく生きる幼児を育む幼稚園を作る。</li> <li>・新しい生活の仕方を意識し、健康に配慮した生活の仕方を身に付ける。</li> </ul>	幼児が自ら体を動かそうとする意欲や態度を育て、自然に対する関心を深めたり、季節感を感じた生活を展開したりする。	計画的な校庭・体育館や公園の使用と遊び場の環境構成の工夫により、体を動かす楽しさを体験し、自ら体を動かす意欲を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週4回以上、校庭・体育館や公園を使用し、体を動かす遊びを計画的に取り入れ、週案に記載する。</li> <li>・生活の中で、衛生・安全に配慮し、手洗い、うがいを自分から進んで行えるようにする。状況に応じて消毒を取り入れる。</li> </ul>	自ら戸外に出て遊ぶ幼児の増加。運動遊びに積極的に取り組み、ルールを守って遊ぶ幼児の増加。運動能力測定の実施と数値の向上。集団で道路を歩く経験をして、公共の場でのマナーを身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼遊び・かけっこ ・ボール遊び・なわとび</li> <li>・巧技台 ・大型マットを使った遊び</li> <li>・表現活動を含めて体幹を強くする遊び</li> <li>・近隣の公園に予備日も含めて必ず遊びに行く。</li> </ul>
			年間を通じた計画的な栽培活動を通して、身近な自然に対する興味・関心を深めていくようにする。また、親子で植える活動をして、保護者もできる時に子供と水やりや観察をして生長を楽しめるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年齢に適した花や野菜の栽培活動を積極的に行い、野菜の収穫後園内で食す、家庭に持ち帰る等。</li> <li>・花育活動を推進し、園舎内外の花を育てる活動を親子で1回子供だけで1回実施する。</li> <li>・親子栽培は、登園時に保護者と水やりして生長を喜ぶ</li> </ul>	野菜や花の栽培や身近な自然の事象に関心をもち、食に対する関心や自分で育てたことへの満足感をもつ。育てた野菜に愛着を感じ、進んで食すことができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花育や親子で夏野菜の栽培と収穫をする。</li> <li>・サツマイモ（プランター）</li> <li>・気候変動に強く食べやすい野菜栽培と収穫と調理して食す。</li> <li>・観察に加えて遊びに活用できる春秋植えの花植</li> </ul>
			教師との信頼関係を基盤に、一人一人が自己発揮しながら、意欲的に遊びに取り組み環境構成をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の話をよく聞き、日々の会話を楽しむ。また、思ったことや感じたことを伝える機会を大切にす。</li> <li>・絵本や物語の読み聞かせを毎日1回以上行う。</li> <li>・年間を通して、外国語や外国の生活が分かる絵本を取り上げて読むなど、親しむ機会を多くする。</li> </ul>	幼児一人一人が、生き生きと人と関わり、教師や友達と会話を楽しむ姿が増加する。外国語の歌に親しみ、歌うことを楽しむ曲を学期に1曲以上経験する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常保育の中での会話</li> <li>・絵本・紙芝居（外国の絵本や歌）</li> <li>・話し合い活動</li> <li>・英語で遊ぼう 活動</li> </ul>
個の育ちと協同的な学びの場を保障する幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成を強化し、教師一人一人の保育の質の向上を図り、確かな幼児理解のもと、その時期に適切な教材や、活動を取り入れた教育活動を実践する幼稚園を作る。</li> </ul>	人材育成を重点課題と捉え、個々が幼児理解を深め、幼児の発達や小学校教育への移行を意識した保育の実践をする。働き方改革の意識を持ち、効率の良い仕事の仕方と、自己啓発に努める。	園内研修をすすめて、3年間の幼児の発達の姿を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師を招聘しての園内研究会を実施し、幼児理解に努め保育の質の向上を図る。</li> </ul>	どの学年の幼児も、自発的に遊びに取り組み、豊かな遊びが行われるように興味関心を捉えた環境構成を工夫する。教師の幼児理解が深まり、発達を踏まえた指導のねらいを明確にしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研究会 ・特別支援情報交換</li> <li>・週や日のねらいと評価をする</li> </ul>
			週案の打ち合わせを通し、園全体の幼児一人一人の実態や課題、指導について毎月の実態や変容を共通理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週案の打ち合わせを実施し、そこで、各学級の実態や課題、前月指導してきたこと等を出し合い共通理解する。</li> </ul>	どの教諭も、園全体の幼児の実態を把握し、指導の方針を共通理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週案打ち合わせ</li> <li>・日常の情報交換</li> </ul>
			一人一人が自己の課題を明確にして資質向上を目指し、保育実践に当たる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己申告に自己の課題を明記し、その課題に向けて取り組みたいことを記載する。</li> </ul>	個々の課題に対する、取り組み指標、成果指標が70%以上を達成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己申告の作成と反省・評価や、年度末の自己評価</li> </ul>
幼児・保護者・教職員が共に育つ幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育を支援し、互いに信頼し合いながら、幼児にとってより良い生活を構築していく幼稚園を作る。</li> </ul>	新しい生活習慣定着と、規範意識の育成を図る。	保護者と連携をとりながら、一人一人の発達に応じて、基本的な生活習慣を定着させるよう指導する。睡眠や食事等健康的な生活習慣を、意識して動けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の生活の中での指導を積み重ね、学期に2～3回学級便りの発行や、懇談会の際に幼児が身に付けられるように具体的な例をあげて家庭に示し、園と共に取り組んでもらう。</li> </ul>	自分の持ち物の始末、うがい・手洗い、着替え、昼食の準備片付け、遊具の片付け等が自発的にできる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級通信による指導の実情伝達と家庭への啓発。保護者会での指導の効果の報告。</li> </ul>
		幼児教育への保護者の理解を深め、共に育てていくという意識を高める。	保護者が幼児の成長や幼稚園の活動の理解を深める機会の充実のための工夫を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労する保護者が保育の参観をできるよう期間を設けるなど日程の工夫する</li> </ul> 地域の方や保護者が、幼児教育・子育てに関心をもてる様、園からの発信を強化する。（配布物、ホームページ、講話）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつや返事をすること、また、してよいことやいけないことについて、年齢に応じた指導を、幼児の心に響くかたちで、日常的に行う。</li> <li>・保護者に参加や参観の機会やお便り等で知らせる機会を増やす。保育のねらいや担当が構成する環境の意味や幼児にかける言葉かけの配慮等の発信をする。</li> </ul>	気持ちのよいあいさつ・返事を自発的または、相手の挨拶などを受け止めて行うことができる。園評価で80%以上の保護者が評価。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材の利用（絵本や紙芝居）・教師の語りかけと気持ちのよいあいさつの実施。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・週末にはホームページの更新をし、その週の幼児の生活や発達の姿を知らせる。</li> <li>・保護者同士が懇談し子育てについて話す機会を年2回設けるようにする。</li> </ul>	幼児の発達や、幼稚園の教育内容が、園評価で、80%以上理解される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級日より 園日より</li> <li>・ホームページのブログ</li> <li>・掲示</li> </ul>
地域・家庭との連携を大切にしたり、魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA や、地域との関わりを大切に、その力を最大限に、教育活動に活かす幼稚園を作る。</li> </ul>	出来る範囲で地域・PTA・小学校と円滑な連携をすすめて、教職員・保護者同士のつながりを広げる。	地域の方々と保護者の方々をつなぐ役割を意識し、出来る範囲で情報を伝え合い、交流できる機会作りをしていく。就労支援の預かり保育の開始に伴い、働く保護者も園行事やPTA活動に参加できる内容にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのキャンパスプランニング事業や、地域の施設を活用した活動、本園独自の体験活動を組み込み、幼児が豊かな体験活動ができる機会を増やしていく。</li> <li>・就労する保護者も園行事やPTA活動に参加できるよう、年度初めに日程や内容を周知する。</li> </ul>	保護者が積極的に園の教育に関心をもてるようになる。保護者のアンケートにより課題があった項目について、3学期には、数値が向上するよう取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜保育参観・地域散策と公園の利用</li> <li>・地域の伝統行事</li> <li>・地域の方と歌や昔遊び等の交流をする</li> <li>・コンサートの実施</li> </ul>
			小学校・中学校と可能な交流をすすめて、互いの教育内容を理解したり、園児・児童の交流の機会を多く作ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・中学校と可能な交流活動を行う。</li> <li>・教員同士の授業・保育の参観、研究会に参加を学期に1回はできるようにする。</li> </ul>	・幼児・児童交流の振り返りや教員の研修会参加後の気付きについて情報共有を学期に一回はする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校と合同の体験活動</li> <li>・教員の交流と勉強会</li> </ul>